

2022 年度第 1 回社会・環境部会運営小委員会議事メモ（案）

2022 年 4 月 25 日

社会・環境部会 事務局長

山本 隆一

1. 開催日時

2022 年 4 月 25 日（月）10：00～11：40

2. 開催場所

Zoom によるリモート会議

3. 出席者

土田部会長、佐田副部会長、諸葛委員、伊藤委員、寿楽委員、
布目委員、稲村委員、高木委員、小林委員、竹田委員、桑垣委員、
山本事務局長

4. 配付資料

22-1-0 議事次第

22-1-1 2021 年度第 4 回社会・環境部会運営小委員会議事メモ案

22-1-2 部会等運営委員会の状況について

22-1-3 2021 年度運営体制表

22-1-4 22 秋企画セ提案書社環部会

22-1-5 2021 年度決算状況と 2022 年度予算について

22-1-6 マスメディアとの関係構築（実績と見通し）

22-1-7 ポジション・ステートメント WG について

22-1-9 社会環境部会のウェビナーについて

5. 議事概要

冒頭、土田部会長より挨拶があり、議事に入った。

(1) 前回議事メモ確認

議事メモ（資料 22-1-1）については既に供覧済みである上、本日は途中退席予定の委員が二人いることから、時間節約の観点で各委員が別途再確認した上で、今週末までに必要に応じて山本事務局長までコメントを寄せ、所要の調整を行った上で(案)をとることとした。

(2) 部会等運営委員会の状況について

稲村委員より資料 22-1-2 に沿って紹介があった。稲村委員より直近の会

合が5月31日開催予定のため、特記事項として、プログラム編成WGメンバー等部会選出委員について、技術継承的な意味合いも含めて交代を視野に入れる必要がある旨、改めて提案があった。これについては部会長より、昨年の新規加入委員も含めて運営小委員会内の役割分担について見直したい、との発言があった。この他、若手への浸透策として、学生の表彰(ポスターセッション、等を対象に)についても考えるべきとの提案があった。

(3) 2021年度部会運営体制について

22-1-3に沿って今年度の運営体制について山本より簡単に紹介した。

(4) マスメディアとの関係構築について

伊藤委員より 資料 21-1-6 により先月開催したマスコミ勉強会について報告があった。参加したマスコミ関係者は6社10名、当部会からは部会長他6名が同席の上で、対面、オンラインのハイブリッド開催とした。東京都市大学の高木直行教授の「革新的技術の原子力イノベーションに向けた研究開発について」と題した講演の後、懇談に移行し、そもそも「原子力イノベーション」とは？ 福島第一原子力発電所事故による原子炉設計の思想変化はあったのか、といった質疑が行われたとのこと。また、今年度の計画については今後詰めていくとのこと。

(5) 秋の大会における部会企画について

佐田副部会長より 22-1-4 を参照しつつ、秋の大会での部会企画セッションについて、従来通り、春の年会での表彰対象者による講演とするか、あるいは新研究専門委員会との合同セッションとする案も含めて提案があった。意見交換の結果、従来通り表彰案件絡みのセッションとする案を軸に佐田副部会長を中心に昨年度表彰者への打診も含めて準備を進め、提案書を取りまとめることとなった。

(6) 2022年度予算について

高木委員より 22-1-5 を用いて説明があった。現時点ではまだ事務局から21年度最終の予算実績推移表が共有されていないので、昨年度決算についても全体会議時点と同じ見込み額表示となっている。22年度予算については、現時点で秋の大会は日立での開催が決まっているが、もともと対面開催を考慮した予算としており旅費等も問題なく支出できる。また、シンポジウム等についても対面開催に備えた予算としている。意見交換の結果、予算枠、金額も含めて了解された。

(7) PSWG 活動状況について

山本より 22-1-6 に沿って紹介した。現在、理事会主導で PSWG の役割も含めて PS の見直しを行っており、提示資料は理事会との意見調整を踏まえて WG で議論を始めている案のダイジェスト版で、意見調整後、広報情報委員会に諮り、理事会に提案することになっている。これまで PS は部会等からの提案を起点として作りあげる仕組みとしていたが、その提案がほとんどない状態で、世情に合わせた見直し作業もあまり進んでいないことから、学会長に進言し、今回の見直しを行うこととなった、といった説明を行った。いくつかの意見交換の後、方向性について部会としては特段の異論はないことを確認した。

(8) 部会 HP について

木藤委員欠席のため、議論はできなかったが、予てより Facebook への書き込みが低調であることなど、工夫が必要であることが指摘された。

(9) その他

部会長より新たに立ち上げた「原子力に関わる人文・社会科学的総合知問題研究専門委員会」（通称「総合知研究専門委員会」）での議論について紹介があった。また 5 月に予定されている部会としてのウェビナーへの参画状況が紹介された。

以上